野菜・茶およびウメの原産地表示判別技術の開発

1　中核機関・研究総括者

独立行政法人農業技術研究機構野菜茶業研究所・木幡　勝則

2　研究期間

2002～2004 年度（3 年間）

3　研究目的

安定同位体比測定、栽培土壌と生産物の元素分析による原産地表示判別技術を開発するとともに、産地表示判別を補完する品種識別および生産・流通における履歴管理・情報システムを開発する。

4　研究内容及び実施体制

① 原産地表示判別技術の開発（静岡県茶業試験場、鹿児島県茶業試験場、京都府立茶業研究所、富山県食品研究所、群馬県工業試験場、和歌山県農林水産総合技術センター、一関工業高等専門学校、三重大学、独立行政法人農業技術研究機構野菜茶業研究所、独立行政法人農業技術研究機構果樹研究所）

安定同位体比や元素組成分析データを用いて、野菜・茶およびウメの原産地表示判別技術の開発を行う。

② 品種識別技術の開発（栃木県農業試験場、奈良県農業技術研究センター、福岡県農業総合試験場、独立行政法人農業技術研究機構野菜茶業研究所、独立行政法人農業技術研究機構果樹研究所、独立行政法人種苗管理センター）

品種特異的な DNA マーカーを用いて、茶およびイチゴの品種識別技術を開発する。また、ウメ果実の形状解析による品種識別技術を開発する。

③ 茶生産・流通における履歴管理・情報システムの開発（静岡県茶業試験場、鹿児島県茶業試験場、独立行政法人農業技術研究機構野菜茶業研究所）

茶の持つ固有の情報や暗号化技術等を用いて、信頼性の高い履歴管理・情報システムの開発を行う。

5　目標とする成果

野菜・茶およびウメに適した原産地表示判別技術が開発される。これにより、他の作物への新たな用途が開けるとともに、国内生産基盤の維持・強化への貢献、正しい表示に基づいた健全な農産物流通の確保が期待される。